

査し、ひとえ羽織・ひとえ長着については絹・ウール・その他にわけてそれぞれの所持数を、これら以外の衣服では絹とその他にわけてそれぞれの所持枚数を記入していただいた。

3. 平均1人当り所持数はいずれも高校生が最低でコート・帯・すそよけ・エプロン類は全日制高校生、肌じゅばん・足袋は20歳以下の無職の定時制高校生、羽織・ニット・はんてん・長着・長じゅばん・こしまきなどは職業をもった定時制高校生が最低となっている。所持数の多い者はコートでは40～60歳以上、羽織は30～50歳、長着・帯・長じゅばんなどは30～50歳代でニット・エプロン類は20～40歳代に多かった。また絹は概して30歳以上の年齢層に多く、毛織物その他は短大生並びに高校生に所持率は高く示されている。

## C-18 和服の所持数調査について

四天王寺女短大 大川原千鶴  
○山科 圭子  
鳥井 明子

1. 近年消費経済の波にのって結婚支度のための和服購入も、一生着られるほどのものをととのえていた戦前ほどではなくとも、年毎に流行期間の短くなった洋服に比べてまだその手持ち数はかなり多く、使用されずにいる衣類も相当あるものと考えられ、その一端として本調査を行なった。

2. 調査は本学学生およびその家族と大阪市立の全日制及び定時制高校生の女性990名を対象にコート、羽織、ニット、はんてん、長着、帯、長じゅばん、肌じゅばん、すそよけ、こしまき、足袋、エプロン類について調